



**UNITED NATIONS
UNIVERSITY**

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京渋谷区神宮前5 53 70

Tel.: +81-3-3499-2811
Fax: +81-3-3499-2828
E-mail: media@hq.unu.edu
Website: <http://www.unu.edu/>

21 March 2005
MR/J03/05

メディア用原稿
非公式記録

世界水の日 2005年3月22日

**国連大学の専門家が警告、
南米の広大なパンタナル湿地が次のエバーグレードにな
りかねない**

南アメリカの巨大なパンタナル湿地は世界有数の生物多様な生態系だが、周辺の集約農業、工業および都市の開発事業によりさらなる脅威にさらされている。国連大学の専門家はこの問題は気候変動に伴い悪化が予測されると警告している。

パンタナルは南アフリカの中心に位置し、16.5万平方キロメートルを占める世界最大の淡水湿地。パンタナルはかの有名なフロリダのエバーグレードの失われた生物多様性の研究のために米国の科学者の関心を集めている。エバーグレードは開発と農業のために1940年代から進められた排水プロジェクトにより生物多様性が失われた。

国連大学は3月22日の世界水の日を記念するメッセージとして、パンタナルが水の貯蔵および浄化、暴風防護や洪水緩和、降雨や温度などの地域の気候の安定化などの役目を果たし多大なる環境への貢献をしているとしている。

しかしながら、本日、このような役目は、気候変動というグローバルな問題に譲歩した形になっている。地域の汚染、居住地の破壊や多くの種にとっての移動回廊の減少などの現象は、集約農業、現代的家畜の飼育方法やエネルギー生産、鉱業などのパンタナルとその周辺の土地の利用の変化に因るものである。

「非常に極め細やかな統合的な管理がなされなければ、地球上の最も偉大な環境財産は人間の侵害によって永久に変質されてしまう」と国連事務次長兼国連大学学長ハンス・ファン・ヒンケル教授は語る。

国連大学とブラジルのマトグロッソ連邦大学は、共同でパンタナル地域環境プログラム (UNU-PREP) を運営し、パウロ・テクゼイラ・デ・ソウサ・ジュニア博士が統括している。

NEWS RELEASE

パンタナルは、ブラジル、ボリビア、パラグアイに跨る地域で、湖、沼、川、森林や森林小島が数多く点在している。ここでは一年の半分は乾季で湖沼は浅く数千種類の生物にユニークな居住場所を提供している。多くの絶滅の恐れのある固有種を含む、650種以上の鳥類、190種以上の哺乳類、50種類以上の爬虫類、1,100種以上の蝶類や270種以上の魚類が生息する。また、パンタナルは北アメリカで夏を過ごす数多くの渡り鳥の越冬地にもなっている。



UNU-PREP と日本にある国連大学高等研究所 (UNU-IAS) の分析によると「パンタナルの大部分は原始時代のままであるものの、今日の生態系は経済開発、水路の変化や土地利用の変化のために過去に例のない圧力を受けている。」

分析によれば「さらに、グローバルな気候変動は、湿地の環境や生物の多様性、そして種の構成を本質的に変化させることで、巨大な環境的脅威をもたらしている。」

パンタナルへのグローバルな脅威：気候変動

国連大学の分析によれば、摂氏3度から4度の気温の上昇は現存する湿地の85%を消滅させることが出来るという。湿地は地球の水のたまる低地にある炭素の約六分の一を貯蔵しているが、そのほとんどは有機物で湿地の排水や破壊などにより、土壌が乱されることで放出される。

分析によれば、年間人類が排出する炭素のうち、土地や土地の利用の変化によるものは1.6ギガトン(17%)を占める。そして、2100年には「地球上の生物圏は、現在の炭素の貯蔵場から炭素の放出源となることが予測される。」

「気候の変動の中でこれらの貯蔵物の放出、維持あるいは強化は、将来の気候変動に影響を及ぼす可能性がある」

気温が上昇すれば、種は両半球のより高い緯度と標高へ移動し、種の構成と植物の機能は変化することになり、特に水の利用の効率性に変化が現れることになる。

もし、気候の変動が予測通り急激に起きれば、新たな気候の条件と現在の条件に数百年かけて対応してきた植物との間に不一致が生ずる可能性がある。

分析によれば、「湿地の現状保持すなわち湿地が施している恩恵とそこに生息する種への支援の保存は深刻な土地利用の変化と気候変動を回避することと必要な結びつきがある。」

パンタナルへの地域の脅威

「パンタナルの伝統的な魚や家畜などの商品は、今日の市場では競争力がない」と PREP 代表のテクゼイラ・デ・ソウサ博士は語る。「伝統的農家による外部への土地の売却が進み、特にパンタナル周辺の高原では大規模農業が進出している。多くの場合これらの新参者は土地の持続可能な管理の方法を知らない。」

パンタナルと集水域を経済貢献を増大させる目的でいくつかの主要な開発プロジェクトが始められている。分析によれば、「この経済開発及びそれによる人口増加は、パンタナルにネガティブな環境をもたらす新たな脅威となる」。

道路や電線が建設され、大規模家畜牧場や大豆や砂糖キビ農園などの大規模農工業プロジェクトが出現し、人口増加を促している。

分析は、「その結果としての、農業用化学物質による水と土壌の汚染や、都市部の工業汚染が、問題となってきており、」「これらの新しい利害関係者は流域に大規模な影響を与えている」としている。

パンタナルを周辺の高原では「大豆、とうもろこし、砂糖キビ、綿などの工業用単一栽培のために、何百万平方キロメートルのサバンナを切り開いた。川の流域のリパリアン森林は切り倒され、あるいは退化し、侵食や沈降、地域の水の循環のパターンの破壊の進行をもたらしている。これは水の流れを乱し水鳥や魚の移動を妨げている」

パンタナルでの地元の牧畜は、通年草原がある高原の放牧との競争にあおられ、減少した。

分析は「外から新しく来た地主は頻繁に非持続的な手法を用いる」としている。

「1970年代以前は、伝統的な利害関係者は彼らが使用する資源に与える影響は限定されており、ダムの建設により洪水の動向を変えたり、川の沈殿物の量を増加させ水の品質を変えるというような、大きな環境変化をもたらすような手法は持っていなかった。」

「しかし、経済開発が急速に進行すると、農業、現代的牧畜、通商、水力発電や鉱業などの工業化とともに、新しい利害関係者が登場した。加えて、観光業や魚の乱獲により、パンタナル特有の生態系は更に脅威にさらされている。」

テクゼイラ博士によれば、伝統的な牧畜の喪失は乾季の火事をより頻繁に引き起こしやすくしている。家畜が草を食べたり踏み固めたりしなくなることで、草原は乾燥し燃えやすくなる。これらの火事は、水鳥の巣にしている洪水に適応した樹木を破壊し、バラシガジカや他の動物を殺すのである。パンタナルに生息する他の動物には、オオアリクイ、アルマジロ、カピバラ、ブラジル・バク、ジャガーや、絶滅に瀕しているホエザル、カツラザル、カイマン、ジャイアントクロコシジロイヌワシなどがいる。

さらには、鉄道プロジェクトや3つの水上道路プロジェクト（そのひとつはパンタナルを横断）などの、いくつかの大規模交通インフラプロジェクトが開始され大都市や港を結んでいる。

ブラジル、パラグアイ、ボリビア、ウルグアイ、及びアルゼンチンを巻き込む大規模プロジェクトは「パンタナルの持続可能な管理にとって特に悩みである」と分析はしている。目的は浚渫や水路の調整および港の設置により、川のはしけの交通を改善することにある。

「これらのプロジェクトがどのように実施されるかによって、洪水の動向などの、パンタナルの主要な環境のプロセスを変化させる可能性がある。ハイドロビア（水上道路）は、もし完全に建設されれば、パンタナルの洪水地域を減少させることになる」

この間、大規模水力発電所であり季節的な洪水を規制するためでもある施設が、キアバ川に注ぐ主要支流であるマンソ河に建設された。しかし、キアバ川の弱く短くなった洪水のピークは、北部パンタナルの生態環境に絶大なる影響を与える可能性がある。

パンタナルの管理のためのインターリンクージアプローチの必要性

国連大学によれば、気候変動と生物多様性の関係のように生態環境の複雑な相互関係やインターリンクージは、政策レベルでのインターリンクージの開発の必要性を強調している。つまり、パンタナルの利害関係者の活動の環境・経済・社会に対する影響をすべて考慮して湿地を管理しなければならない。

国連大学は、地域レベルでのよりよいコーディネーションがパンタナルや同様の湿地の効果的な管理に繋がるとしている。

「自然環境に存在する共同作用を明らかにし、効果的に利用するために、環境関連の決定プロセスや管理体制における組織的なアプローチが緊急に必要である。インターリンクージアプローチはこの目的を達成するためのコーディネートされた方法を提供できる」と分析する。

「多くの生態系及び環境の問題は国境をまたぐ性質のものであるから、それらは地域レベルで取り扱われることが多い。パンタナルのケースもそうである。地域組織はグローバルな環境問題を優先順位付けすることで、国家政府が管理可能なアジェンダとすることができる...」

「しかしながら、これまでのところ、インターリンクージの作業のほとんどは地域や国家レベルではなく、グローバルなレベルで扱われてきた。2003年10月にブラジルで国連大学高等研究所と UNU-PREP が召集したワークショップにおいて、湿地が跨る3つの国ブラジル、ボリビア及びパラグアイの地域レベルでの協力の重要性を認識した利害関係者はパンタナル湿地の持続可能な管理のための条約を草稿する意思を表明した。」

「この意思を行動に移すことが挑戦である」

本件に関するお問合せは下記にお願いします。

Terry Collins, Canada +1-416-538-8712, +1-416-878-8712 (mobile); terrycollins@rogers.com

国連大学本部広報部・小林 03-5467-1217; wakako.kobayashi@hq.unu.edu

国連大学が発表した分析のフルテキストは下記のウェブサイトでご覧頂けます。

http://www.ias.unu.edu/binaries2/Pantanal_Wetland_Report2004.pdf.



United Nations University (UNU) is an autonomous organ of the UN General Assembly dedicated to generating and transferring knowledge and strengthening capacities relevant to global issues of human security, development, and welfare. The University, which opened in 1975, operates through a worldwide network of research and training centres and programmes coordinated by UNU Centre in Tokyo.